

学志舎へ初めて行ったのは中3になる前の春でした。
それまでの私は、それなりにアイススケートの選手として活動しつつ、
加納高校へ行きたいという希望を持っていました。
しかし何かと理由をつけて逃げていた自分がいました。その結果どちらも中露半端になっていました。
そんな自分を代えたいときかけを探していた頃のことでした。

学志舎のコーチの方々は生徒をよく見て、親身になって相談に乗ってくれます。
そして何より私のことを信じて褒めてくれました。
そんなサポートのおかげで自分を信じることができるようになり、
何のために勉強をするのか、普段から考える癖がつきました。
中学2年後期期末テスト324点、自己最低253点から、
入試では塾に入るまで一番の苦手だった数学で95点、
5科目で453点と自己最高の点数が取れました。
「朋那の頑張りだよ」と塾長は言ってくれましたが、
そこへ導いてくれるコーチがいたからこそつかみ取れた合格だったと思います。

さて、高校へ入ってからのことです。
一度気が抜けてしまい320人中280番に下がってしまいました。
しかし高校受験の経験を思い出し、学年上位を目指すことにしました。
担当についてくださった塚田コーチは、私の性格や勉強のやり方を尊重し、
信じて見守ってくださった上で、テストの結果や普段の学習状況をふまえて
一緒に計画を見直して下さったり、鼓舞してくださったりと、ずっと寄り添ってもらえました。
テスト結果という現状から目を背けることなく向き合うことも教えてもらいました。
そしてそれができるようになり、学年10番台を保つことができ、
無事大学受験を終えることができたことを感謝しています。

将来は、自分自身がそうであったように、
アスリート心のよりどころとなれるような仕事をしたいと思っています。
それには心と行動の関係、さらには選手の行動、言葉をデータ化して分析する方法を学び、
アスリートが試合で最大限の力を発揮するためのサポートをしたいと思っています。

「卒塾生 学志舎で語る」vol.9 2022年3月 卒塾生 嶺川 朋那 同志社大学 文化情報学部 合格

力を何%出せたのか？ 自分で採点する。

点数よりも、大切なものだと思っています。

学志舎では教師のことを「先生」ではなく「コーチ」と呼びます。
「コーチ(coach)」とは「馬車」の意。
ひいては「大切な人を、その目的地まで送り届ける」という意となります。

初めて会ったのは中学3年生の受験前の冬で、
この時から切り替えがしっかりできる「the 努力家」でした。
小さい頃からスケートに打ち込んでいたこともあり、そのベクトルが勉強に向き、
驚異的な集中力で花を咲かせたのだらうと、当時感じさせられたのを今でも覚えています。
高校1年生の頃は彼女とは別の曜日に入っていたため、
あまり会うことがなかったのですが、2年生で彼女の担当になった時、
毎度毎度「もっと1年生の時からしっかりやっていればよかった」と嘆いていました。
私は計画的にコツコツとタスクをこなす彼女の姿しか見たことがなかったため、
1年生の頃の様子は想像が付きませんでした。
しかし、その後悔を胸に勉強に励む彼女に、
「自分も頑張ろう!」と思わされたコーチ、生徒はたくさんいます。
「自分のやりたいこと」があり、推薦入試で合格した後も塾に残り、
大学生活に向けて英語を中心に勉強を継続しています。
目標が明確だからこそ、推薦で合格し、自己研鑽に励むことができているのだと思います。
いつも彼女はたくさんの「ありがとう」という言葉をくれます。
でも、合格は間違いなく自分の努力で掴み取ったものです。
いつもこちらを奮い立たせる努力を見せてくれてありがとう。
また落ち着いた頃に京都へ遊びに行くね!

担当コーチ 塚田真菜 岐阜大学医学部4回生



学志舎

智をつけよ そして人の為に使わせ



築100年の古民家



1F 小中学生教室



2F 高校教室

〒500-8085 岐阜市白木町92番地
【お問い合わせ】平日10:00～21:00

☎ 058-265-4562



<https://gakushisha.com/>

学志舎

検索